

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー 「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」 約2,800人が来場し、「居場所とわたし」を考える4日間が閉幕

2025年10月20日（月）～10月23日（木） 会場：自由学園明日館



セッションでは登壇者たちが実践現場の知見を持ち寄り、対話が行われました



セミナーやテーブルトークでは多くの参加者が真剣に耳を傾けていました

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、10月20日（月）から10月23日（木）まで、重要文化財である自由学園明日館で開催した「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」は、行政、文化施設や団体、医療福祉や教育現場などの実務者等、延べ約2,800名の方にご参加いただき、4日間の会期を終了しました。

テーマである「居場所とわたし」という視点から様々なプログラムを展開しました。芸術文化を通じて「安心していられる居場所」をどのようにつくっていくのか、社会における芸術文化の役割などの議論は、このオータムセッションそのものが芸術実践としての場となり、登壇者だけではなく参加者同士も様々な意見が交わされた4日間でした。来場者の方々からは「**日頃考えることのないテーマばかりで、考えるきっかけとなった。(20代)**」、「**美術館等に今まで興味なかったが、今まで捉えていた視点とは別の視点を手にし、興味が沸いた。(40代)**」などお声をいただきました。

全てのプログラムで手話通訳、文字情報提供の情報保障を行いました。また、騒音下や離れた距離での音声認識を改善する難聴補助システムの導入や、やさしい日本語や触知図、伝わりやすいフォントについてのワークショップでは、参加者が体験することで学びを深める姿が見られました。アクセシビリティ整備に活用できる最先端デバイスや都立文化施設社会共生の取り組み展示の会場は、参加者と担当者が交流する場となりました。さらにカムダウンスペースの試みやセンサリーキットの紹介、参加者一人ひとりへのセンサリーマップの配布など、センサリーフレンドリー（※1）についても考えを深められる仕掛けもあり、**公共文化施策の最前線を多くの来場者の方に体感していただきました。**

※1 静かで落ち着いた環境を提供する「感覚にやさしい取り組み」

今回の「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」での知見は今後ホームページや報告書などで共有していく予定です。東京都とアーツカウンシル東京は、本オータムセッションを通じて得られた多くの知見を生かし、アクセシビリティの向上など芸術文化を通じたウェルビーイングの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

《本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先》

だれもが文化でつながるオータムセッション2025広報事務局

担当：塚本(080-2711-5540)・宮崎(090-1765-8111) E-MAIL：press@cwt2025.com

「居場所とわたし」を考える多様なプログラムを実施

4日間のプログラムは、多様な実践例をめぐる議論から気づきを得る「セッション」、事業運営の場で活かせるアクセシビリティや手法を学ぶ「セミナー」、東京都の取り組みや先進的なデバイスなどを紹介したり、アート作品を通して各テーマについて考えたりする「展示・ワークショップ」、参加者と登壇者が交流し、ネットワークを醸成する「ネットワーキング」の4つのセッションで構成し、居場所のあり方やつくり方について多くの意見を交わしました。



美術館担当者同士が議論を交わす様子

セッション「更新された美術館の役割」では、美術館におけるインクルーシブ・プログラムが障害の有無、年齢や国籍を超え、だれもが安心してアートと出会える場所になることをめざしている中で、更新された美術館の役割と可能性を探る議論が展開されました。

<来場者の声>

- ・ 居場所とは、何もしなくても許される場所という言葉が印象に残った、目的がなくともいても良い場所というのは居心地が良いのではないかと感じた。(30代)
- ・ 正解は1つではないということを再認識できた。様々な意見があり、とても勉強になった。(30代)
- ・ これまで美術館をコミュニケーションの場として捉えたことがなかったので、興味深かった。(20代)

セミナー「カームダウンスペースをつくる」では、発達障害への理解を深め、カームダウンスペースの必要性や、公共空間のみならず、イベント会場など多様な場面での役割について考える場となりました。

<来場者の声>

- ・ 日頃から文化事業に携わる中で、発達障害・精神障害の方が感じる苦痛が少なく適応できるように対応していきたいと考えていたので、セミナーの内容がとても参考になった。(30代)
- ・ 福祉と文化、福祉とアートは親和性が高いと考えている。現時点でも、活用は社会に広まっていると思うが、もっと世の中に広まって周知されていければと思う。(40代)
- ・ 養護施設で働く中で、カームダウンスペースなどを設けることの大切さを実感した。自施設でも工夫して、カームダウンスペースを取り入れていきたい。(40代)



実際にカームダウンスペースをつくったチームの対談



都立文化施設の触察模型を体験できるコーナー

文化施設でのアクセシビリティにかかわる各種の取り組み事例や、アート作品などの「展示」、多様な人の参加を促すツールを使った「ワークショップ」、会場の建物解説ツアーなどを行いました。

<来場者の声>

- ・ 外国人に対するやさしい日本語と、手話が「簡単な表現に置き換えて伝える」ということにおいて、共通していることが分かり、それぞれの言語の理解が深まった。(40代)

- ・ 作品作りをしているが、今までは健常者に向けた見せ方しかしていなかったんだと感じた。視覚障害者の方にどのような表現をすれば伝えられるのかを考えるきっかけになり、世界が広がった。(40代)
- ・ やさしい日本語や地図、字幕機械など、今まで知らなかったのが勉強になった。やさしい日本語は通常話している日本語ではなく、細かく文節で区切るなどよりわかりやすくすることで、伝わることを知ることが出来た。(40代)



2人の盲ろう者が触手話を使って対談した

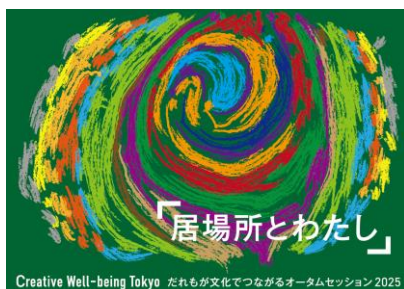
テーブルトーク「盲ろうの世界に触れる」では、盲ろう者の2人が触手話で日常考えていることについて対談。盲ろう者が社会とかかわり、意思疎通を図ることの楽しさについて、参加者に伝えました。会場の雰囲気は一体感を持ち、参加者も登壇者と共に考える場となりました。

<来場者の声>

- ・ 私には解ることのできない盲ろうの世界をととても分かりやすく想像できるよう説明してくれ、一端ではあるが、その感覚が伝わったような気がする。足踏みを使って拍手を伝えるというのが新鮮だった。(30代)
- ・ 次回も同じようなセミナーを開催して欲しい。このような企画・イベントがもっとたくさんあればと思う。テーブルトークと一緒に自分も参加しているような感じがかった。(50代)
- ・ 登壇者と手話通訳士の方のコミュニケーションの方法をみていて驚いた。仕事柄、これから盲ろうの方と関わることもあるかもしれないため、健常者同士のやりとりでも「何を伝えるか?」「何を伝えたいか?」具体的にわかりやすくつたえる意識を高めたいと思った。(30代)

「だれもが文化でつながるオータムセッション2025」開催概要

- 会期：2025年10月20日（月）-10月23日（木）
- 会場：自由学園明日館
- 主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
- 使用言語：日本語、日本手話
- URL：<https://creativewell.rekibun.or.jp/creativewell-conference/2025.html>



クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーについて

芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組むプロジェクト。都立文化施設の情報アクセシビリティ環境を整備し、障害や年齢等を問わずあらゆる人が芸術文化を享受できるプログラムを実施しています。



～感動と共感が、東京を、未来を、変えていく。みんなでつなげるサポートの輪～

オールウェルカムTOKYOは、芸術文化を中心に、アクセシビリティ向上に取り組むみなさまとともに、障害の有無や、言語・文化の違いを超えて、もっとだれもが楽しめる東京を目指すキャンペーンです。

【特設サイト】<https://awt.rekibun.or.jp/>



《本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先》

だれもが文化でつながるオータムセッション2025広報事務局

担当：塚本(080-2711-5540)・宮崎(090-1765-8111) E-MAIL：press@cwt2025.com